



1年・2年環境科学科 第1回SSH先端科学講座 ストップ地球温暖化「低炭素経済への道」

11月5日(木)、日本弁護士連合会の第52回人権擁護大会の一環として「地球温暖化についてのシンポジウム」が開催され、環境科学科1・2年生の計155名が参加しました。地球温暖化問題を解決するには、継続型経済社会を実現するための科学技術開発を積極的に推進することが必要です。この講座では、研究者、海外や日本各地で行われている取組について知るとともに、研究者が行うパネルディスカッションを見学することで、プレゼンテーションの方法論についても学習することを目的としています。

「低炭素経済への道 地球温暖化防止の環境経済戦略」についてご講演いただいた京都大学大学院経済学研究科教授の植田和宏先生は、現在の鳩山内閣において地球温暖化施策による経済の影響等を分析する「温室効果ガス削減中期目標達成にむけたタスクフォー

ス」の座長として活躍されています。講演では、地球温暖化の問題点を科学的に捉え、経済活動の視点から地球温暖化防止に向けた環境経済戦略についての説明がありました。温暖化問題の大きな特徴は、地球規模での問題に対する科学者の問題定義を政治が取り上げたことであり、温暖化対策は将来世代に対する現代人の重要な課題です。現在の日本の状況についての説明の後、EUの都市を例にあげ、持続可能な都市・地域に向けた政策目標や様々な試みを紹介されました。また、環境、経済、エネルギーも含めた低炭素社会の実現への取組の道筋についても説明していただきました。

パネルディスカッションでは、講演していただいた植田先生をはじめ、同じくタスクフォース委員の飯田哲也先生、リコー社会環境本部審議役の則武祐二先生、気候ネットワークの田浦健朗先生と浅岡美恵先生の5名のパネリストをお迎えし、「国の温暖化防止戦略策定の課題」について議論が進められました。現在、Japan-CLPとしてリコーグループを初め7社が持続可能な低炭素社会に向けた環境経営を行っていることや、CO₂25%削減に向け細部にわたって経済への影響の試算がなされていること、自然エネルギー開発の拡大やグリーンニューディールによる雇用創出、気候ネットワークの地域を考慮した再生エネルギー普及活動などについて報告がなされました。また、日本弁護士会から地球温暖化対策法の制定についても提案がなされるなど、今後の地球温暖化防止に向けた政策からの大きな変革を感じさせたパネルディスカッションでした。

参加生徒の感想より

「環境経済学というのは、私にとって初めての分野で、環境と経済の双方から物事を見るということがとても新鮮でした。」
 「“地球は1つだが、世界は1つではない。土地は将来の世代からのあずかりもの。気候も同じ。”という言葉が印象的でした。一人ひとりが温暖化について考えていかなければいけないと改めて思いました。」「難しい内容だったけれど、環境問題解決には、科学的な技術だけではなく、経済的なこともすごく関係しているということがよく分かりました。」



1年・2年環境科学科 発明の祭典 in 和歌山 第3回わかやま自主研究フェスティバル参加および2009おもしろ科学まつり和歌山大会に出展



11月14(土)・15(日)の2日間、ビッグホールにおいて“発明の祭典 in 和歌山”が開催されました。第3回わかやま自主研究フェスティバルには、本校から「SS探究科学II」選択生と理学部の生徒が参加し、プレゼン発表と展示発表を行いました。成果発表会では、和歌山大学や他校からも、福祉や情報、科学など幅広い領域についての自主研究活動報告がありました。審査の結果、数学ゼミの「音楽と文学における1/fのゆらぎ」、環境ゼミの「和歌浦干潟～アサリ激減の謎を追う～」、化学ゼミの「梅に含まれるクエン酸の定量方法と抗菌作用の研究」、生物ゼミの「季節によるアベハゼのタンパク質代謝の変化と生息環境」の4グループが佳作を受賞しました。また、理学部を含めた6グループが入選、数学ゼミの「パズルの神秘」が参加者投票の銀賞を受賞しました。2009おもしろ科学まつり和歌山大会には、本校から「ホバークラフト」、「スライムで遊ぼう」、「スーパーなボールを作っちゃおう」、「人工イクラを作ろう」、「ふしぎなコップ」、「水中空気砲で遊ぼう」、「-19.6℃の世界」というタイトルで7つブースを出展しました。1年環境科学科の生徒と向陽中学生が担当し、工夫をこらした実験で、地域の小学生たちに科学のおもしろさを伝えようと頑張ってくれました。



参加生徒の感想より

「準備や計画をたてるのは楽しいことではなかったけれど、子ども達の笑顔を見ると、とてもうれしかったです。教えたり、小さい子の視点に立ったりと普段できないことができ、とてもよい経験になりました。」「教科書で学ぶ理科だけでなく、こういう機会に楽しんで学んでいくこともいいことだと思った。」「準備は大変だし、当日もとても忙しいけれど、終わったあと、とても達成感があった。」「準備などで協力する難しさと子どもとかかわる楽しさを学んだ。」

